

4 各部の名称と機能

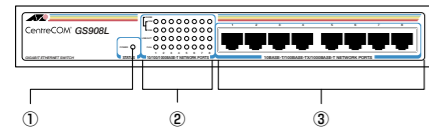


図1 外観図(正面)

- POWER LED (緑)**
本体に電源が正常に供給されているときに点灯します。
- PORT LED**
○ 10M、100M (緑)
10Mは、ポートが10Mbpsで動作しているときに点灯します。100Mは、ポートが100Mbpsで動作しているときに点灯します。10Mと100Mが点灯しているときには、1000Mbpsで動作していることを示します。

○ LINK/ACT LED (緑)
ポートと接続先機器がリンクしたときに点灯します。また、パケットを送受信しているときに点滅します。

○ FULL LED (緑)
ポートがFull Duplexで動作しているときに点灯します。消灯している場合は、Half Duplexで動作していることを示します。
- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポート**
10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-TのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。接続先の種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスどちらのケーブルでも使用できます。また、これらのポートはオートネゴシエーション機能をサポートしているため、最適な通信速度と通信モードを自動設定します。

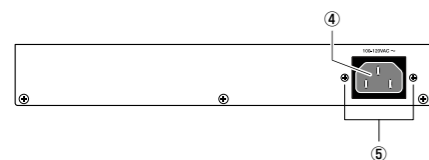


図2 外観図(背面)

- 電源コネクタ**
電源ケーブルを接続するためのコネクタです。
- 電源ケーブル抜け防止金具取り付けネジ**
オプション(別売)電源ケーブル抜け防止金具(AT-RTNR-01)の取り付けに使用します。

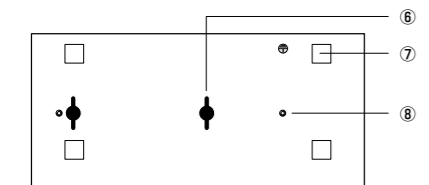


図3 外観図(底面、ポート下向き)

- 壁面設置穴(2箇所)**
本製品を壁面に設置するための穴です。
- ゴム足取り付け位置(4箇所)**
同梱のゴム足を貼付する場所(□型の枠)です。
- マグネットKit取り付けネジ穴(2箇所)**
オプション(別売)のマグネットKitを取り付けるネジ穴です。

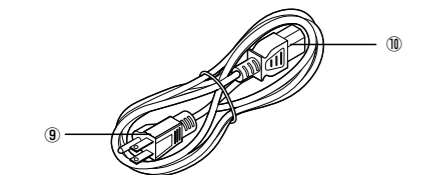


図4 電源ケーブル

- 電源プラグ**
電源ケーブルを電源コンセントに接続するためのプラグです。
- 電源コネクタ**
電源ケーブルを本製品に接続するためのプラグです。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
 - 同梱のラックマウントキットによる19インチラックへの水平方向の設置
 - タッピングスクリーによる壁面への設置
- オプション(別売)を利用することにより、次の方法による設置ができます。
- 壁設置ブラケット(AT-BRKT-J23)による壁面への設置
 - マグネットKit XSによるスチール製壁面への設置
- 警告** 弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。
- ・ 水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

設置準備

● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 底部を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 本体の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクタの端子にはさわらないでください(静電気を帯びた手(体)でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります)。

設置

● 平らなところに設置する(ゴム足を取り付ける)

本製品をデスクの上などに設置して使用する場合は、本体底面の四隅にある□型の枠に同梱のゴム足を貼り付けてください。

ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をしますので、本製品をデスクの上などに設置する場合は、必ずゴム足を使用してください。

- ヒント** マグネットKitとゴム足は同時に使用することはできません。

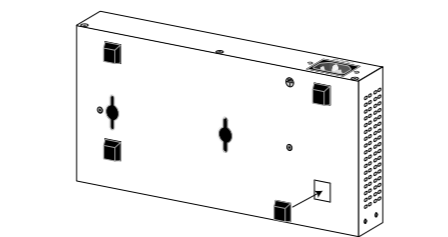


図5 ゴム足の取り付け

● 19インチラックに取り付ける

本製品は、同梱の専用19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

1. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはすす

2. ブラケットを取り付ける

同梱の19インチラックマウント用ブラケットを付属のネジを用いて、本体の両側面にしっかりと固定してください。

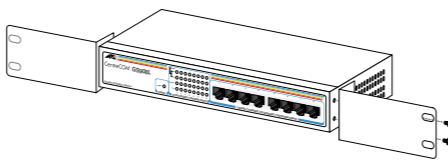


図6 ブラケットの取り付け

3. 19インチラックに取り付ける

19インチラックの希望する位置に本体を合わせ、適切なネジ(別途ご用意ください)でしっかりと固定してください。

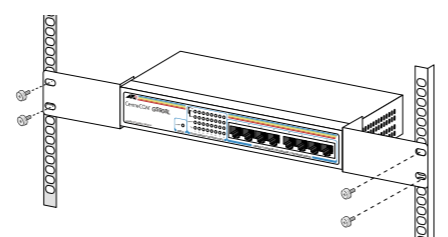


図7 19インチラックへの取り付け

- 警告** ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、19インチラックに適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

オプションを利用した設置

● 壁面への取り付け

本製品の壁面への設置は、別売の壁設置ブラケットAT-BRKT-J23を使用し、以下の点に注意して行ってください。

- ・ 壁設置ブラケットの使用法は、AT-BRKT-J23の取扱説明書をご参照ください。
- ・ 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

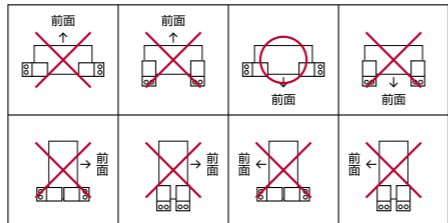


図8 取り付け可能な方向

- 注意** ・ 壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。
・ 壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足を外してください。

- 警告** ・ 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。

- ・ 壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

● スチール製壁面への設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネットKit XSを使用し、以下の点に注意して行ってください。

- ・ マグネットKit XSの使用法は、マグネットKit XSの取扱説明書をご参照ください。
- ・ 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

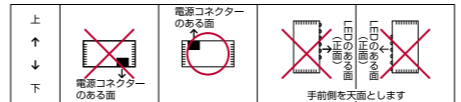


図9 マグネットKit XSを使用する場合の設置方向

- 注意** 設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。

- 警告** ・ 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。
・ マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。

- ヒント** マグネットKit XSと同梱されているマグネットは4個ですが、本製品では2個使用します。

タッピングスクリーによる壁面への設置

本製品は、壁面設置用タッピングスクリーを使用することにより壁面に取り付けることができます。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

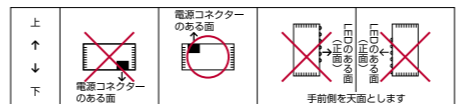


図10 タッピングスクリーを使用する場合の設置方向

- 警告** 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。

- 注意** 取り付けはしっかりした壁に行ってください。手で押しただけでへこんでしまうような壁には取り付けしないでください。

- ヒント** ・ 石膏ボード、ベニヤなど中空になっている壁に取り付ける場合は、プラスチックアンカーを併用してください。

- ・ タッピングスクリーはM3を使用してください。なお、本製品には、壁面設置用タッピングスクリーおよびプラスチックアンカーは同梱されていません。使用の際は、お客様にてご用意ください。

1. 設置場所と設置方向を決める

電源ケーブルおよびUTPケーブルの接続が可能であること、また、LEDの表示が監視可能であることを確認してください。

2. タッピングスクリーをねじ込む

タッピングスクリーの間隔が本体底面にある2箇所の壁面設置穴の間隔と同じになるようにタッピングスクリーをねじ込みます。このとき、ネジと壁の間を1mmほど残してください。

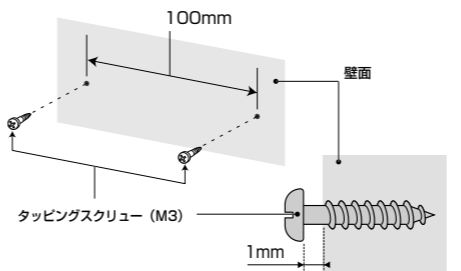


図11 タッピングスクリーの間隔

プラスチックアンカーの使用について

プラスチックアンカーを使用する場合は、きりやドリルなどで開けた穴に挿し込み、かなづちで軽くたたいて壁に埋め込んでください。

- 注意** 穴はプラスチックアンカーが入る程度の大きさにしてください。穴が大きすぎると落下の原因となります。

3. 本体を壁に取り付ける

壁から突き出ているネジ頭を本体底面の取り付け穴にさし込むようにして取り付けます。このとき、ネジ頭がスロットにはまるまで本体をスライドさせ、しっかりと固定させてください。

- 注意** ネジ頭を壁から出し過ぎた状態でご使用になりますと、GS908Lを壁に取り付けた際に製品内部に干渉し、故障の原因となります。

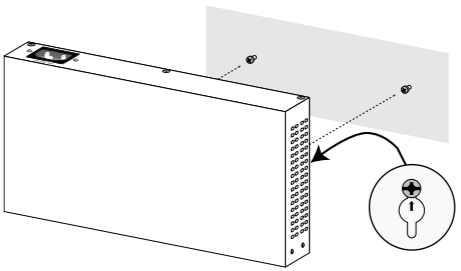


図12 本体の取り付け

6 接続

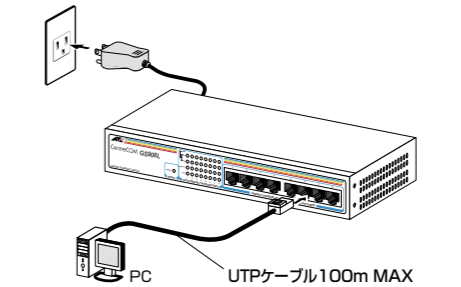


図13 接続図

ネットワーク機器の接続

● UTPケーブルの接続

UTPケーブルを使用して本製品とPCなどの端末を接続します。本体のLANポート(RJ-45)にUTPケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

- ヒント** UTPケーブルのコネクタ部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

● UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-T接続の場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXカテゴリ5以上、1000BASE-T接続の場合はエンハンスド・カテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。

● UTPケーブルのタイプ

本製品はMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしているので、接続先の種類(MDI/MDI-X)を意識することなく、どちらのケーブルタイプ(ストレート/クロス)でも使用できます。

● UTPケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続する長さは100m以内にしてください。

電源ケーブルの接続(本製品の起動)

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

- 警告** 本製品を使用する場合には、必ず製品と同梱されている電源ケーブルをご使用ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

- 注意** 本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

- ヒント** 本製品はオプション(別売)の電源ケーブル抜け防止金具(AT-RTNR-01)に対応しています。

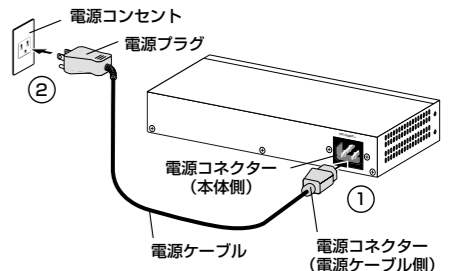


図14 電源ケーブルの接続

- 本体側の電源コネクタを接続する。**
図14の①をご覧ください。
- 電源プラグを電源コンセントに接続する**
図14の②をご覧ください。
このとき、本体前面のPOWER LED(緑)が点灯することを確認してください。
UTPケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートのLINK/ACT LED(緑)が点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには、電源コンセント側の電源プラグを抜いてください。

- 警告** 電源コンセント側に差し込んだまま、本体背面に接続した電源コネクタを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

- ヒント** 電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

7 カスケード接続

本製品は、全てのポートでMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしていますので、ケーブルの種類(ストレート/クロス)および接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)を意識することなく、簡単にカスケード接続ができます。

- ヒント** ・ スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

- ・ カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

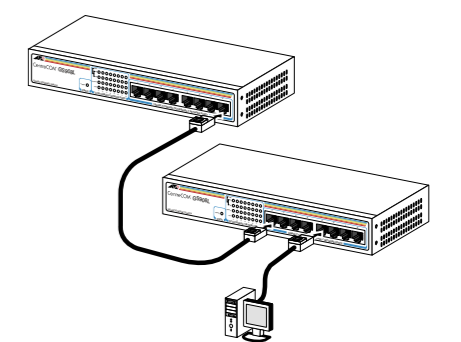


図15 カスケード接続の例

本体の任意のRJ-45ポートにUTPケーブルを接続し、もう一端を接続先機器の任意のポートに接続します。

8 設定

通信速度/通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

IEEE 802.3u規格のオートネゴシエーション機能をサポー